

令和7年度 確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

中学校区におけるめざす子ども像 ・自分のよさを知り、人とつながり協働する子 ・将来にゆめや希望を持ち、その実現に向けて粘り強く努力する子	堺市立錦西小学校 校長 佐藤 憲治
--	----------------------

令和7年度 重点目標 学校教育目標である「心身ともに健康で、地域を愛し、共に喜び合い、自己実現をめざす児童の育成」を具現化するために、安全・安心で、子ども一人ひとりの居場所と教職員をはじめとする「チーム錦西」のそれぞれが躍動する場(「出番」)を創出する、楽しく、活気ある学校づくりを目指す。 【重点取組】①「総合的な学力」の育成に向け、ICTの効果的な活用や子どもたちの「対話」・「協働」を促す授業改善等による多様な学びの実践 ②豊かな心の育成・笑顔あふれる学びの場づくり ③健やかでたくましい体の育成 の3つの取組を進めていく。
--

「確かな学び」の現状 ・令和6年度の「全国学力テスト」「すくすくウォッチ」では、国語の故事成語や漢字の正答率の低さ、計算や基礎的な学力を問う問題におけるつまずきが見られた。 ・理科においては、学習用語を適切に使えていないという課題も見られた。 ・継続して基礎的な問題に取り組む時間(復習中心)を確保し、各教科の積み残しをなくしていく必要がある。 ・自ら進んで学ぶ習慣を身に付けさせるために、家庭と連携した家庭学習を充実させる必要がある。 ・堺市学調の「自分に合った勉強の仕方を考えている」では、肯定的な評価が68.2%であったことから、自分に合った学びを選択できる新たな授業形態に取り組む必要がある。	「豊かな心・健やかな体」の現状 【豊かな心】 ・相手の気持ちやその場の状況を考え、自分の思い、考えをもって行動していく道徳的判断力が養えるよう、道徳の授業を中心とした指導を継続していく必要がある。 【健やかな体】 ・体力テストの結果では、総合力の高い児童と低い児童の二極化傾向が見られる。 ・二極化傾向を分析すると、1週間の運動時間の長い児童は総合評価が高く、運動時間が短い児童は総合評価が低い。 ・体育科の授業の充実を図り、技術を身につけたり体力を高めたりする必要がある。
---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (11月)	達成状況(年度末)			
								自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	基礎・基本の定着	基礎基本の学習内容の定着を図る。	●朝学で漢字、計算練習ほかの基礎的な問題に取り組む、基礎学力を定着させる。 ・発達段階に応じて、問題文を読み取る力を高めるための作文指導や語彙力向上のための辞書を活用した学習を推進する。 ・朝の読書、家庭読書活動を充実させる。	・漢字、計算等の理解度確認テスト ・読書を啓発する取組	・児童の基礎的な問題の理解度 ・実施状況(啓発の取組、図書室利用(人数、冊数)状況等)	11月 1月～2月	○ ●朝学で児童の実態に合わせて漢字、計算練習ほかの基礎的な問題に向かうことを習慣付けさせるなど基礎学力を定着させる取り組みを行っている。 ・発達段階に応じて、作文指導や語彙力向上のための辞書を活用した学習を推進しており、2月に行う教員アンケートにより、学習を推進させた検証を行うこととした。 ・聞かせ亭(地域人材)の協力を得て読書の啓発や図書館の活用を促したほか、児童の図書委員会が企画した読書マラソンを初めて実施し、朝の読書、家庭読書活動を充実させる取り組みを行っている。				
			●「家庭学習の手引き」や家庭との連携により、児童自らが主体的に取り組む家庭学習を充実させる。 ・「知りたい」「なぜ、どうして」等、学びへの興味・関心、好奇心を引き出すような家庭(自主)学習を推進する。	・家庭学習を主体的に行う意識を向上させるノートグランプリ等の取組 ・興味・関心、好奇心を引き出す動機づけの取組	・実施状況(意識向上の取組状況等) ・実施状況(動機づけの取組状況等)	随時 11月 1月～2月	○ ●「家庭学習の手引き」や家庭との連携により児童自らが主体的に家庭学習に取り組んでいる。 ・ノートグランプリのノート掲示の更新の頻度多くすることにより、児童の学びへの興味・関心、好奇心を引き出すよう工夫し、家庭(自主)学習を推進させている。				
	授業改善	ICTを効果的に活用し、「主体的、対話的で深い学び」の視点による授業を実践する。	●★ICTを活用した「個別最適な学び」と他者と関わりながら、より良い学びを生み出す「協働的な学び」を実現することにより、多様な学びへの対応を実践する。 ★発達段階に応じた情報活用能力を育成する。	・ICTを効果的に活用した授業 ・授業形態の工夫	・実施状況(ICTの活用、授業形態の工夫状況等)	11月 1月～2月	◎ ●★学校群公開授業を機会とした授業改善に組織的に取り組み、ICTを活用した多様な学びへの実践例を100以上蓄積している。 ★研究ミーティングを新設し、発達段階に応じた情報活用能力を育成に向けた議論、情報共有の場としている。				
			●「学習のめあて」「今、何を学んでいるか」「今日の学習で何が分かったか」を明確にした授業を行う。	・児童のノート ・児童の「ふりかえり」による学びの整理 ・児童の発言	・実施状況(児童のノート、ふりかえり、発言内容の変化等)	随時 11月 1月～2月	○ ●「学習のめあて」の提示とふりかえりでの確認を継続することにより、「今、何を学んでいるか」「今日の学習で何が分かったか」を明確にする授業を行っている。				

